言葉の響き

校　長　　武井　正明

先日、栃木の農家を襲撃した殺人事件があった。16 歳のならず者達を唆して人殺しをさせていたのが、幼い子どもを持つ二十代の夫婦というから驚き呆れた。そしてこのテレビ報道のある言葉の響きに、私は違和感を禁じ得なかった。

それはその犯罪集団を「トクリュー」と略称で表現していたからだ。私には「りくりゅう」と似た（おふたりには大変失礼だが）響きで耳に届いた。

これを被害者親族が聞いて、どうお感じになっただろうか。その茶化したようなカタカナの略称に「ふざけるな‼ 全く罪のない人間が、無惨に殺されているんだぞ‼」と怒りを覚える方もいたのではないか。

他国のことはわからない。日本の一部良識に欠けるマスコミは、なぜこんなにも手軽に略称を作って発信するのだろう。それがまるで犯罪者に市民権でも得たかのような誤解をさせ「えっ？おまえもトクリュー？同じじゃん、一緒にやろうよ」といった同属意識を生みだしているのではないか。一部マスコミは「報道の正義」どころか、理解力に乏しい人間たちを、ただ単に煽っているだけなのではないか。世論を左右する情報発信者として、マスコミは言葉の響きにもっと慎重、敏感であるべきだと強く思う。

言葉の響きと言えば「陰キャ」「陽キャ」もそうだ。あれなんだ？

自分に置換するに、人間は明暗両面ある生き物だ。表で明るい顔をしている人間には、生来明朗快活な人もいれば、無理に明るく振舞っている人もいる。私は周囲に不快な思いをさせぬよう基本機嫌良く努めているが、決して明るい人間ではない。いつまでも嫌な記憶を引き摺る暗さも、どうにも直らない自分の嫌な部分だ。「陽キャ＝プラス」「陰キャ＝マイナス」という、とりわけ「陰キャ」などと他人から勝手にラベリングされた側からしてみれば、甚だ迷惑千万な話である。

だから人を一括りに「陰キャ」「陽キャ」だの区分けすべきではないと、私は思う。

それほど人間とは複雑で、その究極は誰もがみんな孤独なものだ。
「他人に迷惑を掛けない」さえ守っていれば、自分にいつも正直でいいと私は思う。そのうえで、一緒にいて互いに自分らしくいられる人が「本当の仲間」なのだ。そういう人を「知己」と言うが、そんな親友を得るのは、そう容易いことではない。

だから君たち、友達の数など全く問題ではないのだ。孤独を怖れないこと。あなたを理解する友達がひとりいれば、それだけで人生はもっと豊かになる。

中学時代に親友ができない人も大勢いる。親友はアクセサリーではない。無理して作るものではない。自然な出逢いからできるものなのだ。だから焦る必要はない。

だいじょうぶ。あなたは陰キャでも陽キャでもない。あなたはあなたなのです。